

## 第63回

# トラック運送業界の景況感（速報）

平成20年7月～9月期

---

---

平成20年7～9月期の国内景気は、原油価格は低下してきたが、原材料高、消費意欲の不振などのマイナス要因に加え、リーマン・ブラザーズの経営破綻に端を発した世界的な金融危機から、先行き後退感が急速に強まっている。また、急激な円高も相俟って、景気をリードしてきた輸出企業の収益悪化も懸念されている。

トラック運送業界では、9月に入って軽油価格の値上がりに頭打ち感がみられたものの、未だ高水準にあり、増コスト分の運賃への転嫁も道半ばと厳しい状況が続いている。生産・出荷の下方修正に伴って輸送数量が減少していることから、業界の景況感は▲96と極めて低い水準が続いている（前回▲99）。

平成20年10～12月期の見通しは、判断指標は▲100となり、厳しい状況が続く見込み。

---

---

平成20年11月6日

社団法人 全日本トラック協会

## 1. 今回（平成20年7月～9月期）の状況

### (1)概況

平成20年7～9月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は75%（前回75%）、「好転」とした事業者は4%（前回3%）で、判断指標は▲96と、前回（▲99）と同様の厳しい水準となっている。

貨物別では、宅配貨物、宅配以外の特積み貨物では、輸送数量、営業収入、営業利益の各指標が悪化している。従来から水準の低かった一般貨物も、営業利益を中心に厳しい水準が続いている。

### (2)特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が56%、「増加」とする事業者が4%で、判断指標は▲62となり、前回（▲46）から16ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が55%、「増加」とする事業者が5%で、判断指標は▲61となり、前回（▲42）から19ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が61%、「増加」とする事業者が6%で、判断指標は▲73となり、前回（▲57）から16ポイント悪化した。

宅配以外の特積み貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が55%、「増加」とする事業者が5%で、判断指標は▲60となり、前回（▲51）から9ポイント悪化した。営業収入は「減少」とする事業者が53%、「増加」とする事業者が6%で、判断指標は▲57となり、前回（▲45）から12ポイント悪化した。営業利益は「減少」とする事業者が63%、「増加」とする事業者が5%で、判断指標は▲74となり、前回（▲62）から12ポイント悪化している。

### (3)一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が54%、「増加」とする事業者が10%で、判断指標は▲52となり、前回（▲47）から5ポイント水準を下げた。営業収入は「減少」とする事業者が57%、「増加」とする事業者が10%で、判断指標は▲58となり、前回（▲50）から8ポイント水準を下げた。営業利益は「減少」とする事業者が69%、「増加」とする事業者が6%で、判断指標は▲84（前回▲82）となり、減少が続いている。

### (4)運賃水準

運賃水準は、宅配貨物の判断指標は▲15（前回▲14）、宅配以外の特積み貨物は▲6（前回+3）、一般貨物は▲17（前回▲19）で、他の指標が大きく悪化する中、弱含みながらも水準を堅持している。

### (5)実働率等

実働率は▲40（前回▲32）、実車率は▲35（前回▲28）で、ともにやや水準を下げている。

雇用状況は+1（前回+8）で、人手の過不足感はない。採用状況は▲14（前回▲6）で前年水準が続いている。所定外労働時間は▲24（前回▲22）で、やや減少が続いている。

保有車両台数は▲17（前回▲13）でほぼ横ばい、貨物の再委託（下請運送会社への委

託)は▲25で、やや減少となった(前回▲19)。

#### (6)地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、九州、四国、東北、北陸信越、北海道は大幅悪化となっている。

事業者の規模別にみると、中規模事業者、大規模事業者で大幅悪化となっている。

主な取扱い品目別では、従来水準の低かった建設関連貨物は持ち直した。その他貨物は大幅悪化となった。

## 2. 今後(平成20年10月~12月期)の見通し

### (1)概況

平成20年10~12月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は▲100で、さらに4ポイント悪化する見込み。

### (2)特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入、営業利益とも、今回とほぼ同様の悪化が続く見込み。

宅配以外の特積貨物は、輸送数量、営業収入はやや改善、営業利益は改善の見込み。

### (3)一般貨物

一般貨物は、輸送数量は今回とほぼ同様の水準だが、営業収入、営業利益はやや改善の見込み。

### (4)運賃水準

宅配貨物はやや水準を下げる見込み。宅配以外の特積貨物、一般貨物は、横ばいの見込み。

### (5)実働率等

実働率はやや改善、実車率は今回とほぼ同様の水準の見込み。

雇用状況は、人手の過不足感はない見込み。採用状況は前年水準、所定外労働時間はやや減少が続く見込み。

保有車両台数は横ばい、貨物の再委託(下請運送会社への委託)は、やや水準を下げ、減少が続く見込み。

### (6)地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、近畿、関東以外のすべての地域で大幅悪化の見込み。

事業者の規模別では、中規模事業者で大幅悪化が続く見込み。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物が大幅悪化となる見込み。

### 3. 特積貨物の概況

項 目		概 況	
宅	輸送数量	前回 0 13 37 42 8 (-46) 今回 0 4 40 46 10 (-62) 見通 0 7 40 37 16 (-62)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回より悪化して、減少となった。地域別では、近畿、中国、北陸信越ではやや減少に留まった。</li> <li>・ 今後も今回と同様に、減少が続く見込み。</li> </ul>
	営業収入 (売上高)	前回 0 11 43 41 6 (-42) 今回 0 5 40 44 11 (-61) 見通 0 6 45 32 17 (-60)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回より悪化して、減少となった。地域別では、中部では大幅減少となっている。近畿は相対的に減少幅が小さい。</li> <li>・ 今後も今回と同様に、減少が続く見込み。</li> </ul>
貨	営業利益	前回 0 8 36 47 9 (-57) 今回 1 5 33 43 18 (-73) 見通 1 4 38 39 18 (-69)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回より悪化して、減少となった。地域別では、四国、中部では大幅減少となっている。近畿は相対的に減少幅が小さい。</li> <li>・ 今後も今回と同様に、減少が続く見込み。</li> </ul>
	運賃・料金の水準	前回 0 5 78 14 3 (-14) 今回 0 12 66 18 4 (-15) 見通 0 11 65 17 8 (-21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回と同様に、横ばいが続く。地域別では、東北、中部、中国がやや下落となっている。一方、北陸信越ではやや上昇となっている。</li> <li>・ 今後は今回よりやや悪化して、やや下落に転じる見込み。</li> </ul>

#### 【調査の概要】

- ◆平成5年3月より開始、以降3カ月ごとに実施。  
今回は平成20年9月29日に配布。  
平成20年10月28日到着分までを集計。
- ◆回収率：69.3%

	特 積	一 般	合 計
調査対象	262	638	900
回収数	135	489	624

項 目		概 況	
宅配	輸送数量	前回 0	9 37 48 6 (-51)
		今回 0	5 40 45 10 (-60)
		見通 0	7 44 39 10 (-52)
		<p>・ 前回よりやや悪化して、減少となった。地域別では、近畿では横ばい、北海道、関東、九州ではやや減少に留まった。</p> <p>・ 今後は今回よりやや改善して、やや減少となる見込み。</p>	
以外	営業収入 (売上高)	前回 0	10 38 50 3 (-45)
		今回 0	6 40 44 9 (-57)
		見通 0	8 44 36 11 (-51)
		<p>・ 前回より悪化したものの、やや減少が続く。地域別では、近畿、北海道は横ばいに留まる。</p> <p>・ 今後は今回よりやや改善するものの、やや減少が続く見込み。</p>	
特積	営業利益	前回 0	8 30 53 8 (-62)
		今回 1	4 33 47 16 (-74)
		見通 0	9 35 42 15 (-62)
		<p>・ 前回より悪化して、引き続き減少となっている。地域別では、近畿は横ばい、北海道はやや減少に留まった。中国、中部は大幅減少となっている。</p> <p>・ 今後は今回より改善するものの、減少が続く見込み。</p>	
物	運賃・料金の水準	前回 0	17 70 13 0 ( 3)
		今回 0	13 70 14 2 (-6)
		見通 0	14 67 16 3 (-9)
		<p>・ 前回よりやや水準を下げたものの、横ばいが続く。地域別では、東北、九州はやや下落となっている。</p> <p>・ 今後も今回と同様に、横ばいが続く見込み。</p>	

凡例

	大幅に 増加・上昇・好転・人手不足	+ 2 点
	やや 増加・上昇・好転・人手不足	+ 1 点
	横ばい	0 点
	やや 減少・低下・悪化・人手過剰	- 1 点
	大幅に 減少・低下・悪化・人手過	- 2 点

(注1) 各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

(注2) 各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

(注3) グラフ右のカッコ内は業況判断指標。指標は、各設問の回答に対し、増加・好転+1~+2、横ばい0、減少・悪化-1~-2の点数を与え、1事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

A (設問Aの回答者数) = a<sub>1</sub>+a<sub>2</sub>+a<sub>3</sub>+a<sub>4</sub>+a<sub>5</sub> (設問Aの選択肢1~5の回答数の和)

指標 = { (+2×a<sub>1</sub>) + (+1×a<sub>2</sub>) + (0×a<sub>3</sub>) + (-1×a<sub>4</sub>) + (-2×a<sub>5</sub>) } ÷ A × 100

#### 4. 一般貨物の概況

項 目	概 況
輸送数量 (全体)	<p>             前回 0 10 42 38 9 (-47)              今回 0 10 36 44 10 (-52)              見通 0 7 40 43 10 (-54)           </p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回よりやや悪化したものの、やや減少が続く。地域別では北陸信越、東北が減少となっている。四国は相対的に減少幅が小さい。</li> <li>・今後も今回と同様に、やや減少が続く見込み。</li> </ul>
営業収入 (売上高)	<p>             前回 0 11 39 39 11 (-50)              今回 1 9 33 45 12 (-58)              見通 1 8 40 42 10 (-53)           </p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回よりやや悪化したものの、やや減少が続く。地域別では九州、中部などで、規模別では小規模事業者、中規模事業者で、品目別では建設関連貨物で、それぞれ減少となっている。</li> <li>・今後は今回よりやや改善するものの、やや減少が続く見込み。</li> </ul>
営業利益	<p>             前回 0 7 25 47 21 (-82)              今回 1 5 26 46 23 (-84)              見通 0 7 30 44 19 (-75)           </p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回と同様に、減少が続く。地域別では九州、東北で大幅減少となっている。</li> <li>・今後は今回よりやや改善するものの、減少が続く見込み。</li> </ul>
運賃・料金の水準	<p>             前回 0 8 71 17 5 (-19)              今回 0 10 69 16 6 (-17)              見通 0 9 69 17 5 (-19)           </p> <p>0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回と同様に、横ばいが続く。地域別では近畿、北陸信越、中部で、規模別では小規模事業者で、品目別では建設関連貨物、機械関連貨物で、それぞれやや下落となっている。</li> <li>・今後も今回と同様に、横ばいが続く見込み。</li> </ul>

## 5. 共通の概況

項目	概況
実働率	<p>・前回よりやや悪化したものの、やや低下が続いている。地域別、品目別、規模別のすべてでやや低下となっている。 ・今後は今回よりやや改善するもの、やや低下が続く見込み。</p>
実車率	<p>・前回よりやや悪化したものの、やや低下が続いている。地域別、品目別、規模別のすべてでやや低下となっている。 ・今後も今回と同様に、やや低下が続く見込み。</p>
雇用状況 (人手の過不足)	<p>・前回よりやや悪化したものの、過不足のない状態が続く。地域別では北陸信越で、規模別では大規模事業者では、それぞれやや不足感がみられる。 ・今後も今回と同様に、過不足のない状態が続く見込み。</p>
採用状況	<p>・前回よりやや悪化したものの、横ばいが続く。地域別では、東北、北海道、北陸信越、九州ではやや減少となっている。 ・今後も今回と同様に、横ばいが続く見込み。</p>
所定外労働時間	<p>・前回と同様に、やや減少となった。地域別では、中国、中部で、品目別では機械関連貨物で、それぞれ横ばいに留まっている。 ・今後も今回と同様に、やや減少が続く見込み。</p>

項 目	概 況
保有車両台数	<p>前回 1 8 72 17 2 (-13)  今回 0 5 75 19 1 (-17)  見通 0 3 78 17 2 (-18)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回と同様に横ばいとなっている。地域別では四国、北海道、規模別では大規模事業者で、やや減少となっている。</li> <li>・今後も今回と同様に、横ばいが続く見込み。</li> </ul>
貨物の再委託	<p>前回 1 8 68 19 4 (-19)  今回 0 6 67 22 5 (-25)  見通 0 5 66 22 7 (-30)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回より水準を下げ、やや減少となった。地域別では中部、規模別では大規模事業者、品目別では機械関連貨物で、横ばいとなっている。</li> <li>・今後は今回よりやや水準を下げ、やや減少が続く見込み。</li> </ul>
経常損益	<p>前回 0 4 35 47 14 (-71)  今回 1 5 30 45 20 (-80)  見通 1 5 32 45 18 (-75)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回よりさらに水準を下げた。地域別では九州で大幅悪化となっている。</li> <li>・今後はやや持ち直すものの、悪化が続く見込み。</li> </ul>
業界の景況感	<p>前回 0 3 23 48 27 (-99)  今回 1 3 21 49 26 (-96)  見通 1 2 20 50 27 (-100)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回と同様に、極めて低い水準となっている。地域別では、九州、四国、東北、北陸信越、北海道、規模別では中規模事業者、大規模事業者、品目別ではその他貨物で、それぞれ大幅悪化となっている。</li> <li>・今後は今回よりさらに水準を下げる見込み。</li> </ul>

## 6. 事業者特性別の特徴

事業者特性	特 徴																																								
<p>① 地域（注4）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北海道は、全国最下位から5位に上がり、景況感は低水準ながらも持ち直し。</li> <li>・東北は、全国順位8位から7位となり、景況感は低水準ながらも持ち直し。</li> <li>・北陸信越は、全国順位3位から6位に下がり、景況感は悪化。</li> <li>・関東は、全国順位2位から1位となったが、景況感の水準は横ばい。</li> <li>・中部は、全国順位5位から4位に持ち直したが、景況感は横ばい。</li> <li>・近畿は、全国順位1位から3位に下がり、景況感はやや悪化。</li> <li>・中国は、全国順位7位から2位に上がり、景況感は持ち直し。</li> <li>・四国は、全国順位6位から8位に下がったが、景況感は横ばい。</li> <li>・九州は、全国順位4位から最下位となり、景況感は悪化。</li> </ul> <p>◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H 2 0 年 4～6月期</th> <th>H 2 0 年 7～9月</th> <th>H 2 0 年 10～12月期見通し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位</td> <td>近 畿</td> <td>関 東</td> <td>近 畿</td> </tr> <tr> <td>2位</td> <td>関 東</td> <td>中 国</td> <td>関 東</td> </tr> <tr> <td>3位</td> <td>北 陸 信 越</td> <td>近 畿</td> <td>中 国</td> </tr> <tr> <td>4位</td> <td>九 州</td> <td>中 部</td> <td>北 海 道</td> </tr> <tr> <td>5位</td> <td>中 部</td> <td>北 海 道</td> <td>東 北</td> </tr> <tr> <td>6位</td> <td>四 国</td> <td>北 陸 信 越</td> <td>中 部</td> </tr> <tr> <td>7位</td> <td>中 国</td> <td>東 北</td> <td>北 陸 信 越</td> </tr> <tr> <td>8位</td> <td>東 北</td> <td>四 国</td> <td>九 州</td> </tr> <tr> <td>9位</td> <td>北 海 道</td> <td>九 州</td> <td>四 国</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content;"> <p>文字の凡例</p> <p>標準文字：やや悪化</p> <p>ゴシック：悪化</p> <p>反転文字：強い悪化</p> </div>		H 2 0 年 4～6月期	H 2 0 年 7～9月	H 2 0 年 10～12月期見通し	1位	近 畿	関 東	近 畿	2位	関 東	中 国	関 東	3位	北 陸 信 越	近 畿	中 国	4位	九 州	中 部	北 海 道	5位	中 部	北 海 道	東 北	6位	四 国	北 陸 信 越	中 部	7位	中 国	東 北	北 陸 信 越	8位	東 北	四 国	九 州	9位	北 海 道	九 州	四 国
	H 2 0 年 4～6月期	H 2 0 年 7～9月	H 2 0 年 10～12月期見通し																																						
1位	近 畿	関 東	近 畿																																						
2位	関 東	中 国	関 東																																						
3位	北 陸 信 越	近 畿	中 国																																						
4位	九 州	中 部	北 海 道																																						
5位	中 部	北 海 道	東 北																																						
6位	四 国	北 陸 信 越	中 部																																						
7位	中 国	東 北	北 陸 信 越																																						
8位	東 北	四 国	九 州																																						
9位	北 海 道	九 州	四 国																																						
<p>② 規模（注5）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界の景況感は、中規模事業者、大規模事業者で大幅悪化。</li> </ul>																																								
<p>③ 品目（注6）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費関連貨物は前回と同様の水準で、引き続き悪化であった。一般貨物の輸送数量では、農水産品を中心に水準を下げた。今後の景況感も引き続き悪化の見込み。</li> <li>・建設関連貨物は、前回から改善し、悪化水準ながらも品目別では相対的によい。一般貨物の輸送数量では、林産品、窯業品を中心に水準を上げた。今後の景況感は、水準を下げ、悪化が続く見込み。</li> <li>・機械関連貨物は、前回からやや水準を下げ、悪化であった。一般貨物の輸送数量では、輸送機械で水準を下げている。今後の景況感はさらに水準を下げ、大幅悪化となる見込み。</li> <li>・その他貨物は大幅悪化となり、品目別で最も水準が低い。一般貨物の輸送数量では、石油製品、化学肥料などを中心に水準を下げている。今後の景況感も引き続き大幅悪化の見込み。</li> </ul>																																								

（注4） 地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。

（注5） 規模別分類

大規模事業者：101両以上 中規模事業者：21両以上100両以下 小規模事業者：20両以下

（注6） 品目別分類

消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など

建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など

機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など

その他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

## 7. 景況感一覽表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全 体		↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
地 域	北海道	↓	↘	↘	↘	→	→	↓	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	東北	↘	↘	↓	↘	↓	↘	↓	↓	↓	→	↘	→	↘	↘	↘
	北陸信越	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↓	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	関東	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中部	↘	↓	↓	↘	↓	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	近畿	↓	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中国	↘	↘	↘	↘	↓	↓	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	四国	↘	↓	↘	↘	↓	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	九州	↘	↘	↘	↘	↘	↓	↘	↓	↓	→	↘	→	↘	↘	↘
事業 者 規 模	小規模事業者	↓	↓	↓	↘	↓	↓	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	中規模事業者	↘	↓	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	大規模事業者	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
取 り 扱 い 品 目	消費関連貨物	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	建設関連貨物	↘	↓	↓	→	↘	↓	↓	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↓
	機械関連貨物	↘	↓	↓	↘	↓	↓	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘
	その他貨物	↓	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	→	↘	↘	↘

(注7) 各項目は、関連する判断指標(前年同期に対する水準)から平均値を算出。

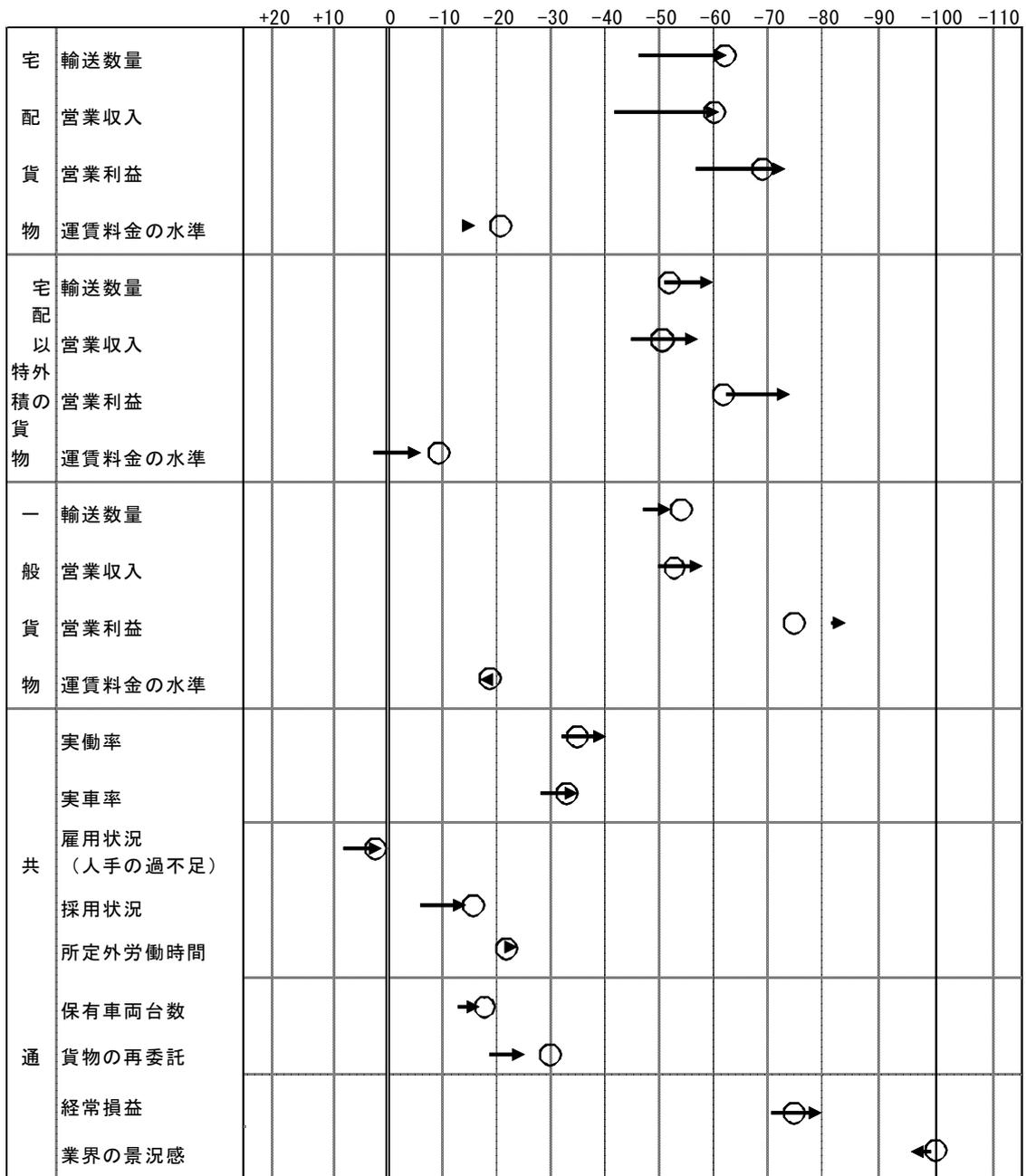
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例・各欄は、左:前回(4-6月) 中央:今回(7-9月) 右:見通し(10-12月)

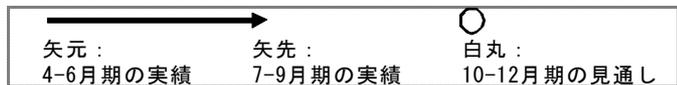
・矢印と判断指標の対応

判断指標	… -100 … -60 … -20 … +20 … +60 … +100 …
矢 印	     

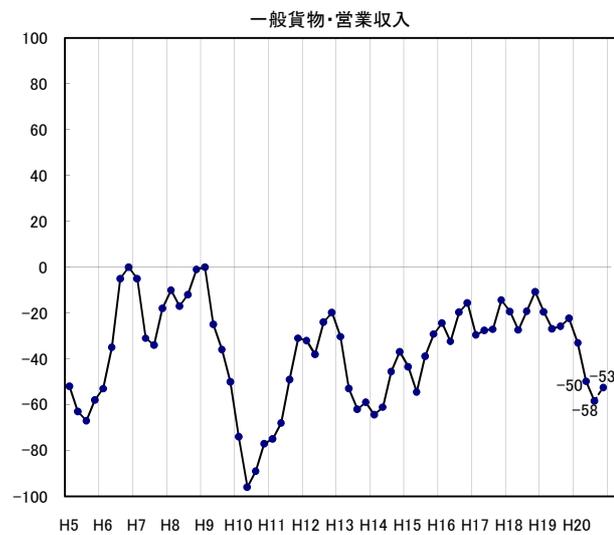
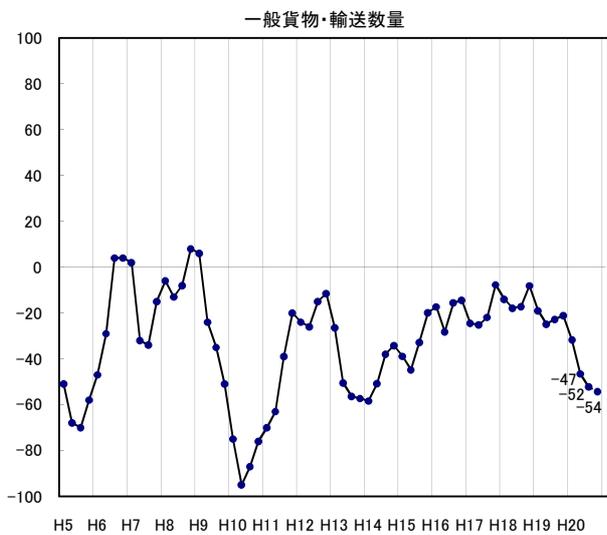
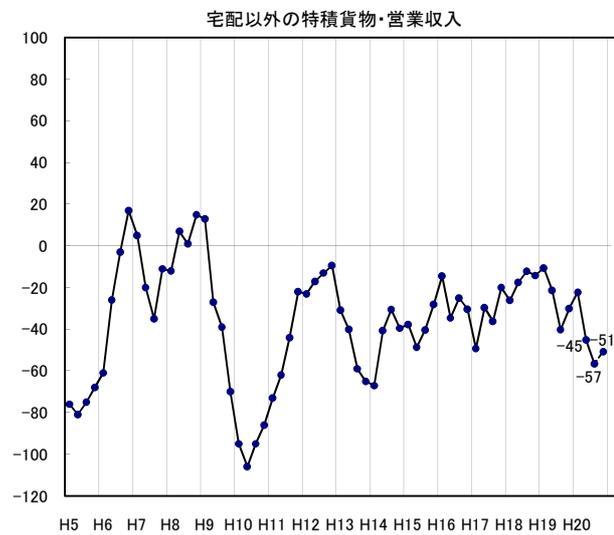
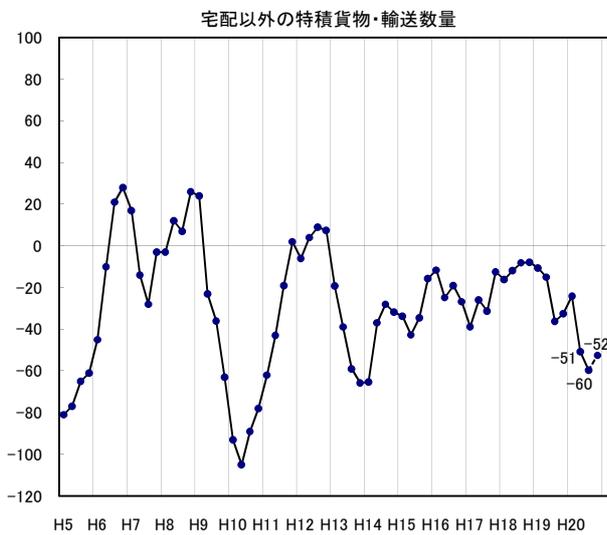
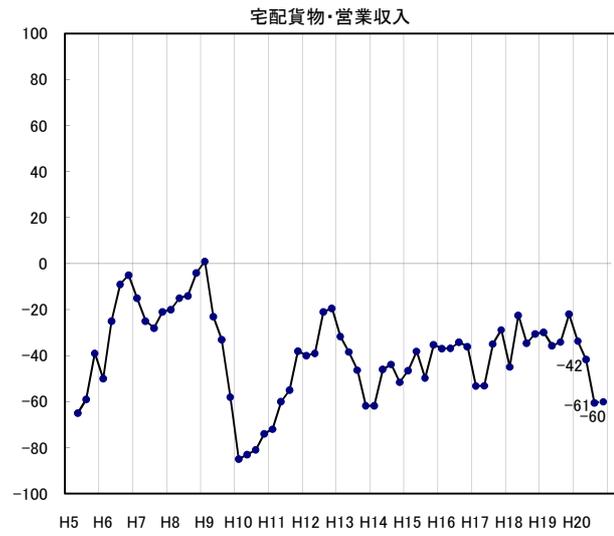
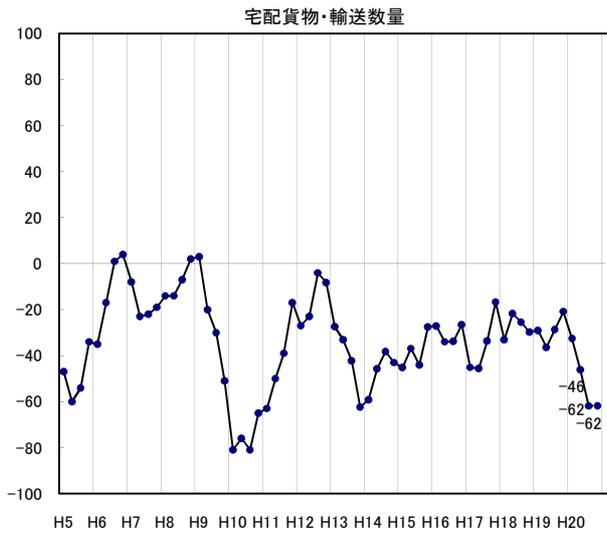
### 8. 業況判断指標の前回調査（平成20年4月～6月期）からの変化



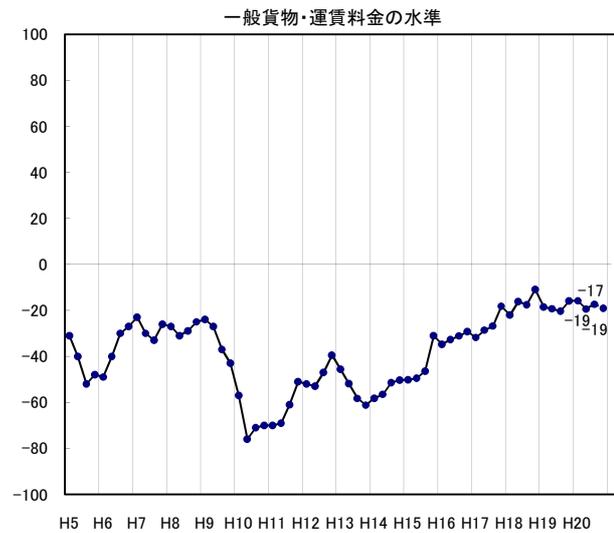
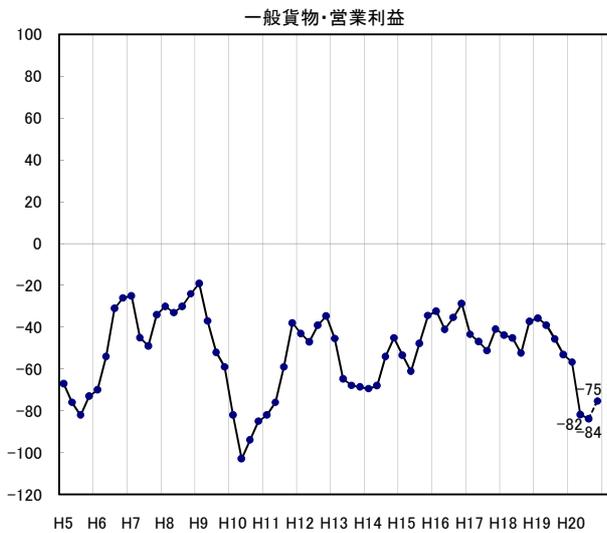
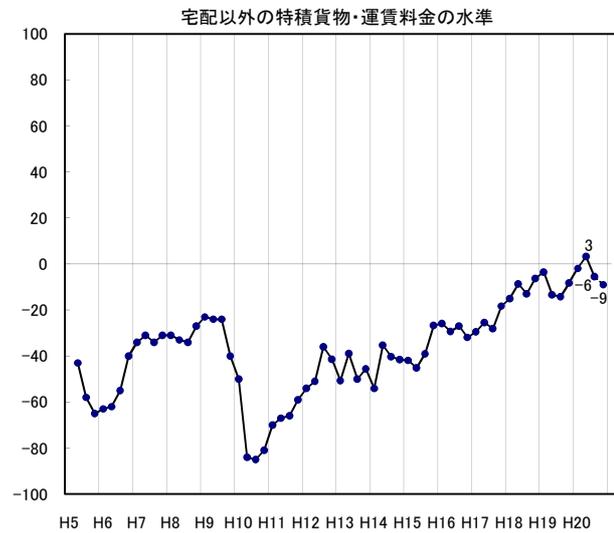
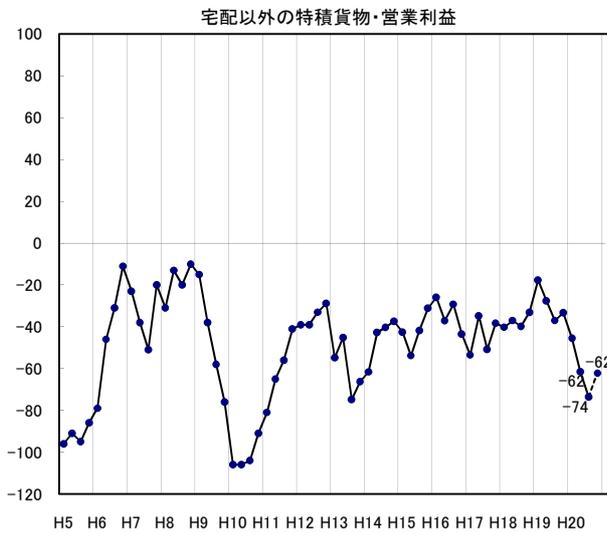
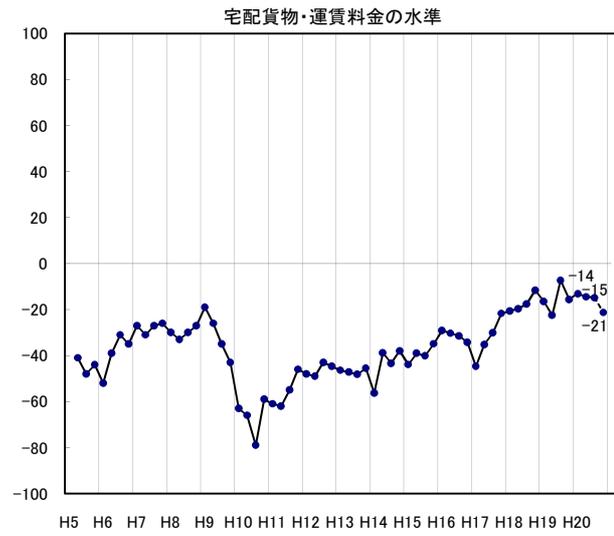
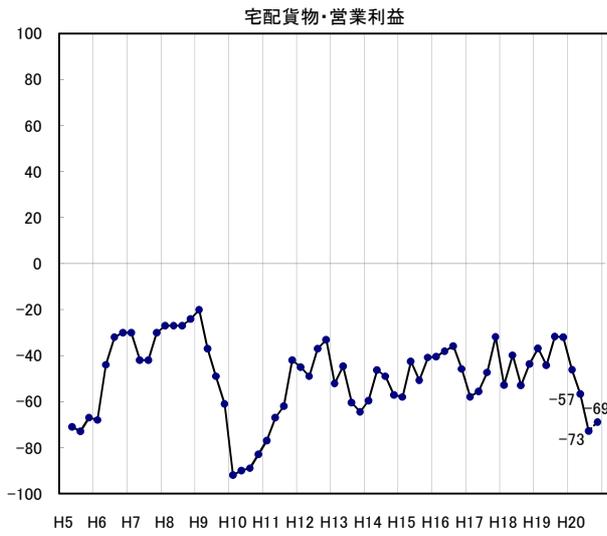
凡 例



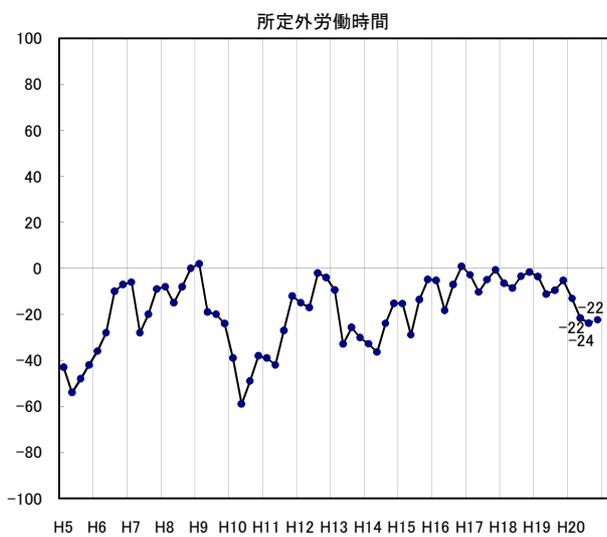
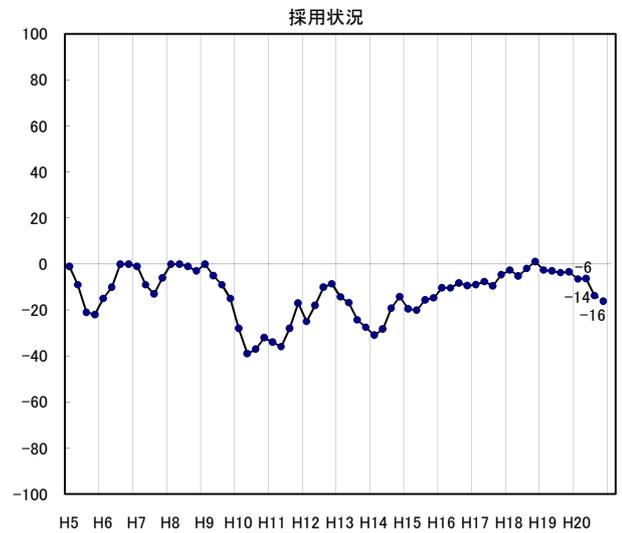
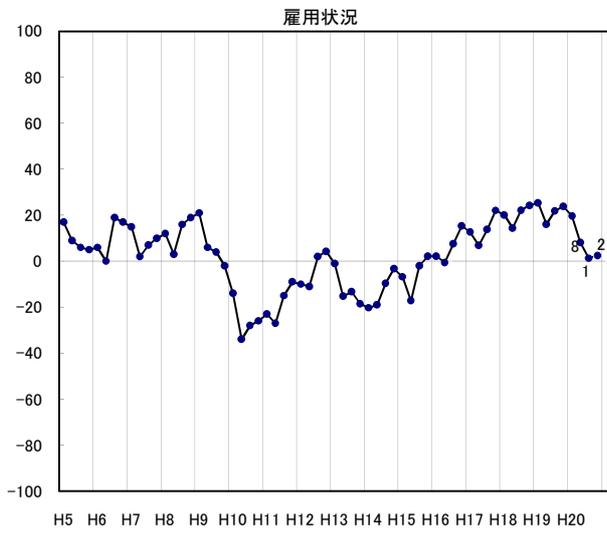
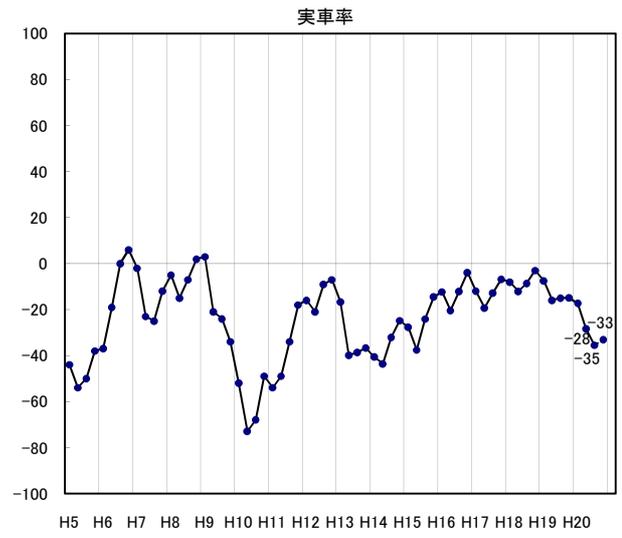
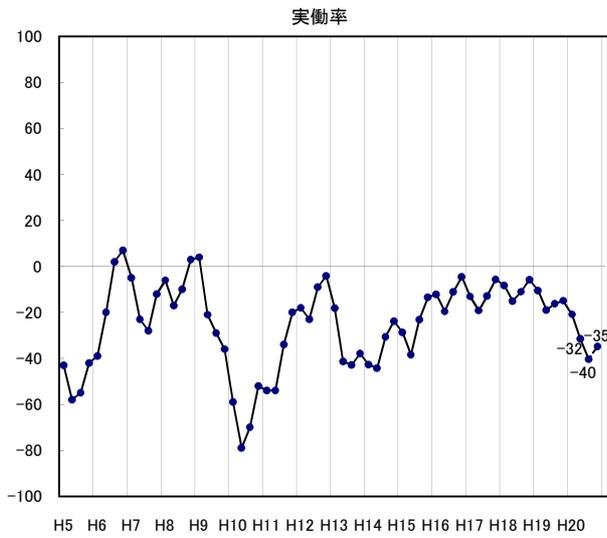
業況判断指標の推移  
 平成5年第1四半期～平成20年第3四半期実績、平成20年第4四半期見通し



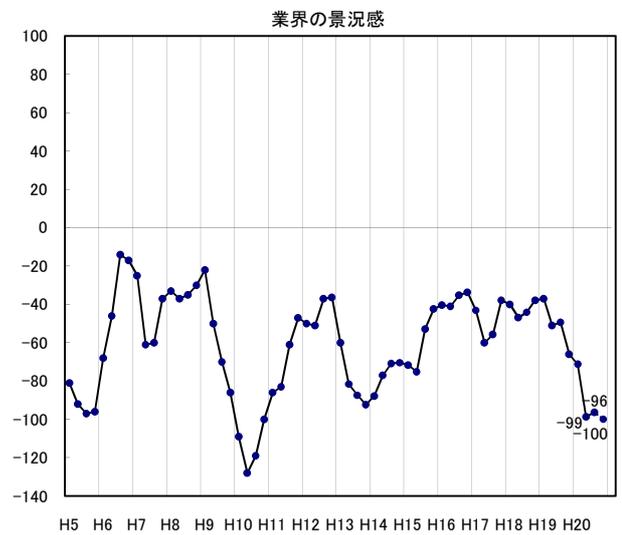
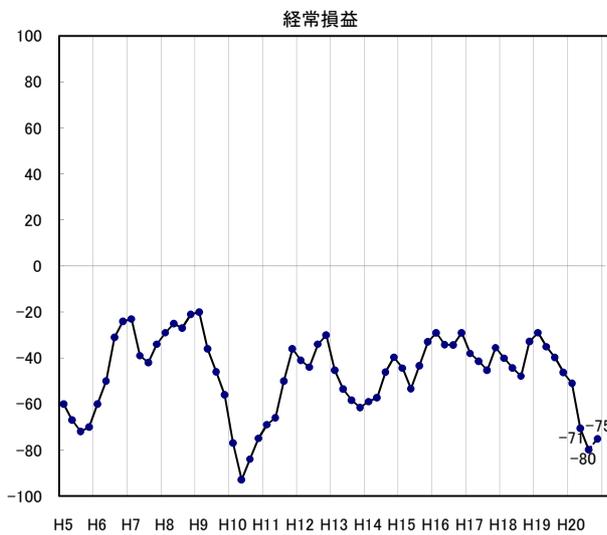
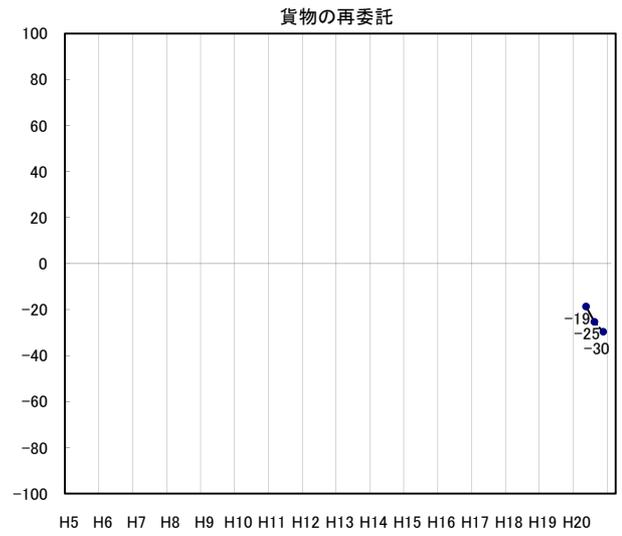
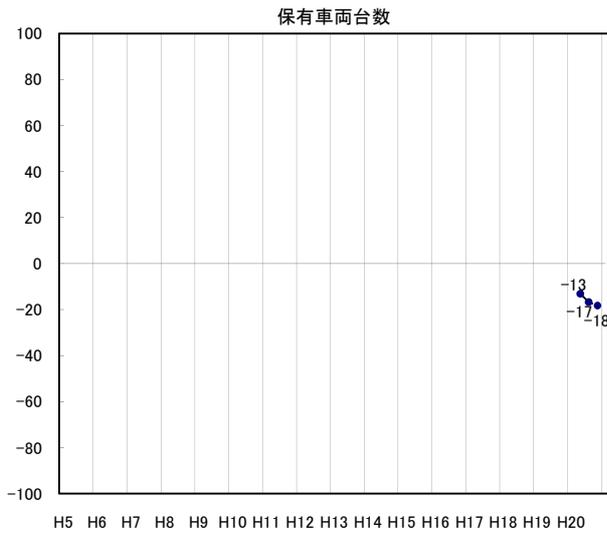
業況判断指標の推移  
 平成5年第1四半期～平成20年第3四半期実績、平成20年第4四半期見通し



業況判断指標の推移  
 平成5年第1四半期～平成20年第3四半期実績、平成20年第4四半期見通し

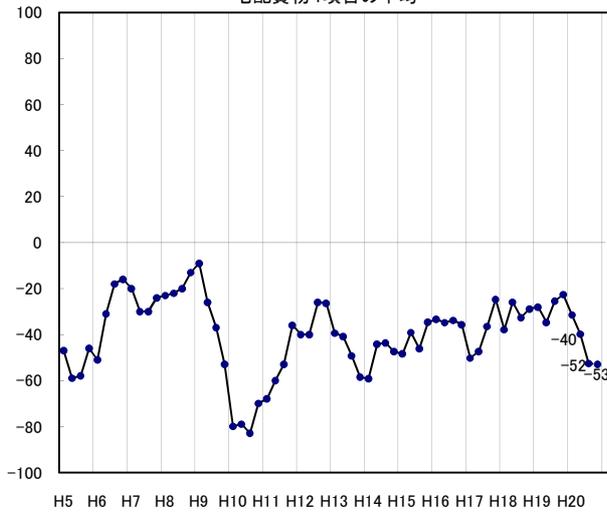


業況判断指標の推移  
 平成5年第1四半期～平成20年第3四半期実績、平成20年第4四半期見通し

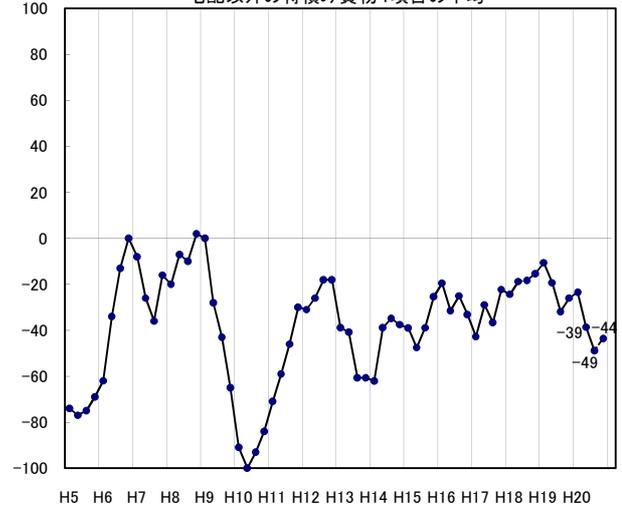


業況判断指標の推移  
 平成5年第1四半期～平成20年第3四半期実績、平成20年第4四半期見通し

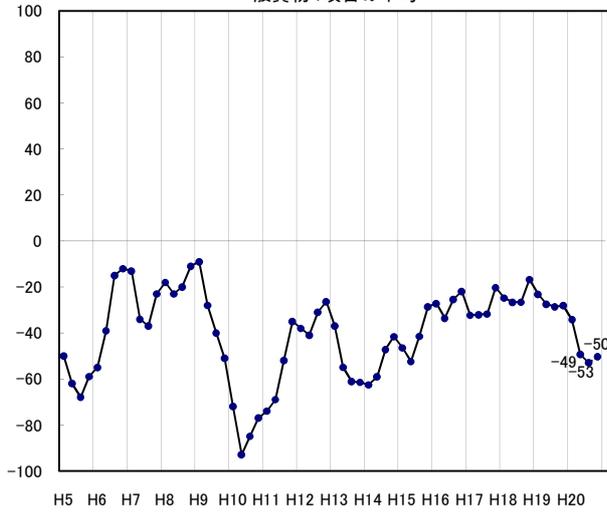
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均

